

ナショナルデー

シンガポールでは、8 月 9 日は「ナショナルデー」という祝日です。シンガポールの独立記念日にあたり、1 か月ほど前から国内の至る所で国旗や独立記念日を祝う看板やバナーが掲げられます。特に HDB と呼ばれる政府管轄の公団マンションの壁面に一斉に掲げられる国旗は圧巻の光景です。また、軍のパレードや「ナショナルデーパレード」と呼ばれる祭典、花火も打ち上げられ、お祝いムードで溢れかえります。

今回は初めて経験する「ナショナルデー」についてご紹介します。

1. 8 月 9 日

今から 51 年前の 1965 年 8 月 9 日、シンガポールがマレーシアからの独立を宣言し、国家として世界に誕生しました。独立とは言うものの、その実は、華人の多いシンガポールとマレー人優遇政策を採ろうとするマレーシア中央政府との軋轢が激化した結果、マレーシアから追放される形での望まざる独立でした。



HDB に一斉に掲げられる国旗

シンガポール中心部にある国立博物館で、独立を宣言する当時の会見の様子を見ることができますが、「建国の父」と呼ばれ、世界で偉大な政治家の一人とされるリー・クアンユー初代首相が、独立を宣言するテレビ演説で人目をはばからず涙したことは有名な話です。強力なリーダーシップにより、望まざる独立から現在の先進国レベルにまでシンガポールを成長させたリー・クアンユー初代首相が人前で涙したのは、この独立会見と自身の母親が亡くなった時のみとされています。それほど、1965 年 8 月 9 日は衝撃的な日であり、シンガポールにとっては特別な日なのでしょう。

2. ナショナルデー

冒頭にも記述しましたが、8 月 9 日には様々な催しが行われ、盛大に祝われます。街中では日本の建国記念日にはない盛り上がりを感じることが出来ます。その中で国民が一番楽しみにしているのが「ナショナルデーパレード(NDP)」と呼ばれる祭典だそうです。筆者もこの祭典を会場で見たいと思うのですが、残念ながら NDP は国民及び永住権者のみが抽選により入場可能とのことで、それ以外の方はテレビ放映を見ることになります。しかし、テレビを通じて、その熱気・盛大さや荘厳さを十分感じるこ

とができます。独立記念の祭典というと、堅苦しい式典をイメージしがちですが、来場者の多くがナショナルカラーである赤色や白色のシャツに身を包み熱狂する様子は、「エンターテインメント色が強いオリンピックの開会式の色合いに近い」と言う人もいますほどです。NDP では毎年テーマが掲げられており、今年は「Building Our Singapore of Tomorrow(明日のシンガポールを創る)」という未来志向のテーマでした。昨年、建国 50 周年という節目を迎え、今年はこれからの新しい 50 年を見据えたテーマであるとして関心を寄せる人も多かったようです。



NDP 会場内の様子①

一方、前述の通り、マレーシアからの突然の切り離しや多民族国家ゆえ、NDP は政府主導による国威発揚の側面も持ち合わせていると言われます。政府発表によれば今年の NDP の費用は S\$3,940 万(日本円約 30 億円)であり、政府による力の入れ具合が窺い知れるとともに、シンガポールが抱える苦悩を垣間見るような気もします。

また、現地大手新聞によれば、最近では国旗を掲揚する HDB も減少してきているようです。「愛国心が無いわけではないが、国旗掲揚を強制する時代ではないのでは」といった意見も紹介されたり、祝日として趣味や旅行に充てる人も増えてきているようです。既に独立後 50 年が過ぎ、世代交代や考え方の多様化が進み、ナショナルデーへの関心

に変化が出始めているのも事実のようです。

とは言え、軍のヘリコプターが国旗を掲げて上空を飛ぶ光景や軍のパレード、多文化の歌、踊り等のパフォーマンスやスタジアムを埋め尽くす国民の様子は、日本では類のない一大イベントであり壮観です。



NDP 会場内の様子②

3. ナショナルデー・ラリー

ナショナルデー・ラリーとは、毎年 8 月 9 日の独立記念日の約 2 週間後に行われる、首相による重要な施政方針演説です。マレー語、中国語、英語で 3 時間以上にわたり行われ、テレビ中継もされます。

JETRO によると近年のナショナルデー・ラリーは「老後の生活補償や公営住宅購入支援など国民の生活支援策に重点が置かれていた」ようですが、今回の施政方針演説では「国をどう発展させるか」「世界の中でシンガポールの地位をどう確保するか」「シ

ンガポールの良好な政治体制をどう維持するか」の3点について説明がなされました。

経済面では、変化のスピードが速い現在において、変化を受入れ迅速に対応することの重要性を指摘。最新技術を用いた新たなサービスや製品の開発、起業家精神の促進、人材の育成が言及されました。

また今回、一番多くの時間が割かれた外交問題では「マレーシア、インドネシアに加え、最も重要な外交相手は中国と米国」と説明。両国とは良好な関係を築いているとしながらも、友好関係を維持する上で欠かせない問題として南シナ海の領有権問題を引き合いに、シンガポールのような小国が存続し続ける上で重要な要素が述べられました。

良好な政治体制の維持については、英国の EU 離脱を問う国民投票を例に挙げ、シンガポール国民の要望を満たす健全な政治体制の維持の重要性が述べられました。

その他、大統領選の制度改革、高齢化対策の見直し等についても言及されましたが、次回総選挙後に次世代の指導者に首相を引き継ぐことも改めて強調されました。

4. 終わりに

最近はナショナルデーへの関心の低下も囁かれますが、初めて見る筆者にとっては圧倒されるシーンが多く、また、日本では見るできない光景もあり新鮮に感じられました。シンガポール人にとっては、思いがけない独立から多くの苦難を乗り越え先進国にまで発展してきたこれまでを振り返るとともに、これから先の未来を考える一日でもあるのかと思います。また、ナショナルデーに付随して行われるナショナルデー・ラリーは、これからのシンガポールの方向性を展望するのに、重要かつ最大の機会の一つであるのではないかと思います。

駐在員にとっては貴重な祝日でもあります。シンガポールの歴史を改めて学びかけとなる一日でもあるように感じられます。シンガポールという国に関心がある方は、是非一度、シンガポールのナショナルデーを通じ、シンガポールの歴史と生活を垣間見てはいかがでしょうか!?



国旗を掲げて上空を飛ぶヘリコプター



最後に打ち上げられる花火

【参考文献】

ジェトロ通商弘報「リー首相の独立記念演説は政治と経済、外交課題に焦点」、報道各紙、政府 NDP サイト

ここに記載されている情報は、情報提供を目的として作成したもので、何らかの勧誘を行うものではありません。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成しておりますが、その正確性や妥当性を保証するものではありません。ご利用にあたってはお客様ご自身でご判断くださいますよう宜しくお願い申し上げます。

「日帰り入浴」

今年 5 月、シンガポール初の日帰り入浴施設が誕生した。先日、ようやく同施設を訪れることができた。男女合わせて 6 種類、11 の浴槽とサウナ、マッサージや食堂・休憩室もあり、日本のスーパー銭湯そのままのスタイルである。

筆者が訪れた時は、オープンから約 3 か月が過ぎようとする頃であり、オープン当初の物珍しさも一段落した頃であろうか、日本人が多いと感じられたが、シンガポリアンの姿も相応にあった。



入浴施設エントランス



一般的コンドミニアムのシャワー室

赤道直下、平均気温 26 度～27 度、日中は連日 30 度超となるシンガポールでは、入浴の文化はないらしい。一般的なコンドミニウムや通常のホテルには浴槽はなく、シャワー室のみという形が通常である。高級ホテルや高級コンドミニウムになると浴槽が設置されているが、あくまでオブジェ的な要素に近く、実際の使用はそうそうないらしい。同施設オープンのニュースを耳に入れ、シンガポリアンに話を振ってみたが、「日本で温泉に入ったことがあるが、素晴らしい！でも、毎日 30 度を超えるシンガポールで入浴するなんて考えられない…」とにべもない。

そんなシンガポリアンや温泉施設未経験の人のために様々な工夫も施されており、「温泉マナー」ガイドも用意されている。原則、日本同様、裸での入浴となっているが、抵抗感のある外国人向けに専用の入浴ウェアらしいものも用意されているらしく、専用ウェアを着用して利用しているシンガポリアンの姿も見えた。

風呂好きの筆者にとって、専用ウェア着用での入浴は見慣れない光景ではあったが、海外で風呂に浸ることができることはこの上ない喜び、くつろぎの時間であり有難い限りである。

とは言え、常夏のシンガポールで、日本の入浴文化がどのくらい受け入れられ根付くだろうか、との興味も湧いてくる。今後、調査も兼ねて同施設を訪れる機会が増えそうだ。



温泉マナーガイド